

緑の地球 GREEN EARTH

地球環境のための国境をこえた民衆の協力

| | |
|---------------------|-----|
| 中国スタディツアーを終えて | P 2 |
| 謝辞中国、一定再来! | P 3 |
| アイヌ民族は先住民族 | P 6 |



アンズを植える斜面は整地され、保水のために土盛りがされていた(霊丘県上北泉村)

GENに参加するには

- ☆会員・会報購読者になる
- ☆自然と親しむ会・講演会・報告会・学習会に参加する
- ☆ワーキングツアーに参加する
- ☆ビデオ『黄土高原に緑を!』を見る
- ☆使用済みテレカを集めて送る
- ☆KDD グリーンアースダイヤルに登録する etc. あなたのご参加を待っています!

1997・5

55

大同概況

協力活動の幅ひろがる

この春、75人が黄土高原に

●75名が黄土高原を訪れる

ことしの春、日本から大同の黄土高原を訪れた人たちは75名にもなりました。まとまったツアーだけでも神戸大 AIESEC (12名)、緑の地球ネットワーク (32名)、全ジャスコ労組 (22名) と3つもあり、そのほかに専門家、取材班などが入れ替わりで訪問しました。

この協力活動を強化し広げていくうえで最大のポイントは、現地の実情を知る人が1人でも増えることだと思います。大同事務所の苦労はたいへんなものですが、これを乗り切った自信は大きなものです。

●菌根菌の育苗実験を開始

地球環境林センターは昨年度の外務省草の根無償資金の助成をうけて、温室・ビニールハウス・トラックなど急速に整備がすすみました。ツアーに参加し、1か月滞在した遠田宏顧問（前

東北大学植物園長）は、センターの技術者といっしょに土壌や樹木の生育調査などにとりくみ、センターの拡張計画の立案に加わりました。

4月中旬には小川眞さん（関西総合環境センター植物環境研究所長）によって、菌根菌を活用した育苗実験がはじまりました。現地の松山の山土やキノコの胞子を使って、生育が速く丈夫な松の苗を作ろうというものです。VA菌根菌を接種したアズの育苗もはじめました。写真家の橋本紘二さんがこの冬に大同を訪れたとき、大量の木炭クズをみつけておくれたため、菌根菌の利用にも有利な条件ができました。夏のツアーが訪れるころには、きっといい結果がでていることでしょう。

●取材班もつぎつぎと



地球環境林センターに完成したビニールハウス。

GENのワーキングツアーに、テレビ朝日の取材班4人が同行し、すっかりなかよしになりました。夏にもういちど現地取材があり、新番組「素敵な宇宙船・地球号」の1コマとして放映される予定です（8月末か9月ごろ?）。

そのあと全国農村映画協会のビデオ取材班と橋本さんが、天鎮県、広霊県の農村を訪れました。黄土高原の実情とこの協力活動について、より多くの人に知ってもらおうと、意味があるだろうと思います。（高見邦雄）

中国スタディツアーを終えて

隅 俊之（神戸大学アイセック）

中国から帰国してから、はや1か月がたちます。時間がたつのは早く、何の不自由もない日々の生活のなかで、黄色い大地の上に立つ自分の写真を見ると、果たしてあれは現実であったかと思うことがあります。それほど大同での経験は、私たちの日常生活からかけ離れた過酷なものでありました。帰ってから様々なことを考え、「自分た

ちがすべきことは何であるか」と答えを探ろうとしました。しかし、考えさせる答えは、いつも非現実的なものであったり、大変コストのかかるものであったりと、どうしても自分の納得できるものが絞れたものになりませんでした。そんなとき思い出したのが、大同で私たちを歓迎してくださった青年団の方の言葉でした。「何か大きいことをしてほしいというわけではありません。みなさんがここで見て感じたことを身の回りの人から伝えてほしいのです」。それだけのこと、とその時は思ったかもしれませんが、けれども、これから環境問題に関わろうとする人間にとって、このことが一番のスタートラインではないかと思ったのです。自分があの大地の現実を伝え、そしてその



延長線上に自分が本当にすべき課題が見つかるのではないか。そう思ったのです。

環境というトピックは様々な方面から注目を受け、また問題とされています。私たちも今回、上海、北京、そして大同をまわり、国家レベル、あるいは民間レベルとしての環境問題を知り、ODAの問題や、ボランティアの課題を実感しました。こうした問題とは、将来自分が仕事をする上で必ず多かれ少なかれ関わる時がきます。その時、自分にはこれができる、というものを持っておきたい。そして、笑顔の絶えなかった農村の子どもがもっと幸せになれるように自分なりにできることから始めようと思ったのです。

1本だけでしたが、植樹をした木が大きくなった頃、もう一度大同を訪れたいと思います。

最後になりましたが、ツアーに同行してくださった長坂さんはじめ、GENの方々、大同市青年団の方々に感謝いたします。



謝謝中国，一定再来！ また来るからね！

春の3つの黄土高原ワーキングツアーのなかから、神戸大アイセックの参加者には前ページに隅さんに書いていただきました。あとふたつ、GEN（▼マーク）と全ジャスコ労働組合（▲）のツアー参加者の日誌から、一部をご紹介します。

▼私はけっこう土とのふれあいや天びんでの水運びが楽しくてはりきってしまった。歓迎のことばや、バクチクにけっこうドキドキしてしまったけど、穴を掘ってアンズのなえ木をうえる段になると、楽しくって一生懸命になってしまった。

通じないって分かってはいたけれど、大阪弁でべらべらしゃべって、何人か友達もできた。言葉はやっぱり通じるにこしたことはないと思いつつも、笑顔で（特に子供とは）一瞬は心通じるな、とうれしがりつつ植林に励んだ。（3月30日（日）晴・下向智子記）

▼穴をほり、土をかけ、苗木を入れ、水と土をかけて、できあがり。とても大変でつかれる仕事でした。しかも、穴をほっていると中国のオジサンがもっと深くほれとってきてメジャーまでだし、70cmどとかいいました。なのに植林するときに深すぎてうめられてちょっとショック……。

（中略）その奥にある広い川底（水が全くない）にリンゴを95年から植えているそうで、それも育つと（5年ぐらいで実ができるそうです）かなり村での収入もあがると思い、ガンバレと思いました。（3月31日（月）・富沢勇武記）

▼バスに乗って窓を開けていると、見送ってくれている人たちのなかを、2人の小学校5、6年生ぐらいの少女がオレに何か風鈴のようなものを渡してきた。それは赤や青、黄、紫、ピンクと色が彩やかな糸を縫い合わせてあり、女の子がいかにも大事にしてそうなのだった。（中略）オレはすぐに中国語のわかる人に誰に渡せばいいか聞くようにたのんだ。でもなまりがあってよくわからないので、通訳の人に聞いてもらおうと、それはどうも自分にくれたようで、それを渡してすぐにどっか

に行ってしまった少女ともどってきてくれた少女は姉妹で、姉の方が「妹があげるといっている」と言った。その時オレは“謝謝”も言えず、お返しもできず、バスは動いて行った。もし中国語が話せていたらと思うと、とても悔やんだけど、感動して、顔を忘れないでいようと思った。明日も労働がある。言葉が話せないオレはいっぱい木を植えてやる。（4月3日（木）雪のち晴れ・森井鉄兵記）



▲大同県の地球環境林で、松の木の植樹。高見さんや東北大学の遠田先生のお話を聞いたりして、その中で土色の大地を見つめていました。

緑色を見つけるのが大変でした。松の木はとても小さくて、大きくなるのが心配なのですが、1年前に植えた松の木が青々と土色の中でがんばっているのを見たので、祈るような気持ちで、手で土をかけました。私はスコップが上手に使えなくて、結局手でかけたほうが早かったです。（4月10日（木）晴れ・藤田嘉子記）

▲説明をきくと、春に植えた松の苗（10数センチ）は厳しい冬をこすために秋には土ですっぽりと包んでしまうのがいいらしい。今日、われわれの手で春の太陽の元に松の苗を出してあげることになった。まるで宝さがしのよ

うな気持ちで土のうねを手で探る。出てきた松が緑色をして生きていた時のうれしさは言葉で書けないほどである。中にきちんと土で包まれずに枯れてしまっていた苗があり、悲しい気持ちになる。昨日植えた松も無事に冬がこせるかな？（4月11日（金）・中嶋聡記）
▲そしてバスは一路天鎮県の小学校へ。子どもが本当に子どもらしい。日本の子どもがなくなってしまったものをこの子たちは持ちつづけている。それは目の輝き。もちろん欠けている、というか得ることのできないものもある。日本では教育を受ける権利なんていうものがあって、学校へ行くのは当然のようであるが、ここの子たちはそうではない。学校に行きたくても行けない子たちが、ここには沢山いる。教室のようすを見て、悲しくもなったけど、こんなオンボロの校舎でも、この子たちにとってはかけがえのないものなのだ。すごく複雑な心境になったけど、決してあわれんではいけないし、でも見て見ぬふりもしてはいけない。ちよいと色々考えさせられてしまった……。（4月12日（土）

晴れ・武田裕子記）

▲現地時間、午後3時05分、いよいよ離陸。中国ともお別れ。きのう、峠で買った鈴がポケットの中でからまってしまったように、私の中でも色々な思いが、からまっています。からまった毛糸は、切るしかありませんが、私の気持ちはハサミで切って片づける訳にも行かず、離陸の瞬間、“乾燥した肌を、ひからびた心を潤す涙”（ある旅行で尊敬する方が言った言葉）が、流れました。思えば、この短いツアーの中で色々なことがありました。

大同県で松を植樹しながら5年後の同窓会を約束しました。その時まで松が育ってくれるように願いを込めて、竹中さんにいただいたミネラルウォーターの最後の1滴を根本にかけました。（4月14日（月）晴れ・佐々木陽子記）

世界の森林と日本の森林 (その9)

立花 吉茂 (緑の地球ネットワーク代表)

●日本の森林



日本の森林は、南西部の照葉樹林と北西部の落葉樹林、それに北海道の一部に針葉樹林があるが、南の森林ほど構成樹種数が多い。それは南ほど暖かいからである。世界各地では暖かいことよりも雨の量がそれを決める地域の方が多い。日本はおしなべて雨量が多く、年間1,000ミリ以下のところはほとんどないからである。先進諸国でこれ程森林に恵まれた国はない。樹種数の多さは抜群である。この多様性があるがゆえに日本は緑が多い。森林を切り倒しても多数の樹種からなる二次林ができるのである。

●照葉樹林構成樹種の種子発芽

かつて、西日本にはシイ、カシを中心とした常緑樹が茂っていた。これらは社寺林などに残されているが、不思議なことにその種子の発芽についてはほとんど調査されていない。先般この欄でドングリ類の発芽のデータと二次林の先駆植物の種子発芽についてふれたが、ここでは形態分類上の2群の発芽の違いを図示してみた(図)。

日本には15種のカシ(ナラ)がある。

分類学上はコナラ属と呼ぶ。先日朝日新聞に英語のオークは樅ではなく、檜だ、とか、いや樅でよいか漢字で書いていた。生物学では混乱を避けるためにカナで書くことになっている。樅はアカガシ亜属、檜はコナラ亜属に属するからはなしは簡単だ。この両者の発芽の特性が全く違う。常緑のアカガシ亜属では、秋に熟して落ちた種子は、越冬してから、春になって根と芽をいっせいに伸ばす。落葉性のコナラ属では落ちたらすぐに根だけを伸ばし、翌春に芽を伸長させる。寒い地方に分

| 発芽特性の2群 | 分類学上の2群 |
|--|---|
| 自然状態での発芽の順序  秋→冬→春 | ブナ科 コナラ属 アカガシ亜属 常緑性 アカガシ イチイガシ アラカシ ハナガシ シラカン ウラジロガシ ツクバネガシ |
|  秋→冬→春 | コナラ亜属 落葉性 クヌギ ナラガシワ カシワ モンゴリナラ ミズナラ ウバメガシ コナラ アベマキ |

布する落葉性の種類は、ドングリを食べるリスやネズミからの食害をふせぐために根だけを出しておくのであろうか? そこまでは考えすぎだろうか? ともあれ分類学上の2群と発芽特性の2群が一致しているのが興味深い。

GEN自然と親しむ会 立花先生と 新緑の植物園を歩く

新緑がまぶしい季節になりました。この季節の植物園は歩くだけで爽快ですが、専門家の説明を聞きながらだともっと楽しめます。建設の最初からこの植物園にかかわってこられた立花先生といっしょに歩いてみませんか。

- 日時: 5月25日(日) 10時~13時
- 場所: 大阪市立大学理学部附属植物園(京阪「私市」駅徒歩6分)
- 集合: 京阪電鉄交野(かたの)線「私市(きさいち)」駅前午前10時
- 持ち物: 弁当、水筒(植物園内には飲食施設はありません)
- 参加費: 大人700円、こども200円(保険料ふくむ、植物園入園料大人350円〔中学生以下無料〕は別)
- 講師: 立花吉茂さん(GEN代表・花園大学教授)
- 申し込み: 5月20日までにGEN事務所(TEL.06-583-1719)まで

97 夏の黄土高原 ワーキングツアーへの お誘い

夏は植樹に向かないので作業が少ないのが悩みのたねでしたが、今夏は大丈夫。ポット仕立ての苗を植えたり、菌根菌利用の育苗のためのキノコ集めなど、いろいろ仕事が待っています。そのあとは五台山でお寺を訪ねるもよし、高山植物を楽しむもよし。みなさんのご参加をお待ちしています。

- 日時: 7月24日(木)~8月3日(日)
- 費用: 23万円、学生22万円(国際航空運賃、中国国内での交通費/食費/宿泊費、ビザ取得手数料、GEN会費1年分ふくむ)

※中国国際航空利用予定、関空発着。成田空港利用ご希望の方はご相談ください。

※北京もしくは大同で合流ご希望の方、ご相談に応じます。

- 申込み締め切り: 6月24日(定員に達し次第締め切ります。)
- 定員: 30人
- 行程予定: 北京→大同(GENの緑化協力地)→五台山→太原→上海



未使用の文房具を 送ってください!

「景品でもらったペンとか使わないし、捨てるのはもったいないし、大同におみやげに持って行ってもらえませんか」という声をいただき、夏のワーキングツアーのときに持参することにしました。緑化協力地の小学校にプレゼントしたいと思います。みなさんのお宅で眠っているエンピツ、ボールペン、ノート、消しゴムなどがありましたらGEN事務所までお送りください。ただし、未使用の品に限らせていただきます。また、実験器具などほかに持参するものもありますので、文房具だけといたします。どうぞよろしく願います。



緑の中国 歴史篇 13

上田 信 (立教大学助教授)

中国の起源について、いまホットな議論が行われています。少し前までは、黄河文明が唯一の中華文明の来源だとされ、教科書でも概説書でも、そのように書かれていました。しかし、最近の教科書を開くと、ちょっと違う、華南では水田稲作を基盤にした独自の文明があったと書かれています。さらに、学术界では従来の中華文明単系説に対して、中華文明複系説が出されています。その考え方によれば、中国の文明を黄河文明から発達したのではなく、異なる複数の文明が複合化したものと捉えるのです。

こうした動きは、近年の活発な考古学の発掘が新しい成果を挙げていると

ころから生まれているのですが、単にそれだけではないようです。北京中心の一極集中的な政治体制が、80年代以降の改革開放政策のなかで弛み、経済的な実力を蓄えた華南の各地域が、それぞれ独自の文化的な主張を行うようになったことも、一つの社会背景として見落とすことはできません。華南の独自の文明に関する多くの書籍が出版されているのも、こうした出版事業にお金を出せる状況があるからなのです。

黄河文明の対抗馬として、注目を集めているものが、「楚」文明です。黄河文明が畑作を中心にしてきたのに対して、楚文明は水田耕作を基盤にしてきたと対比されます。さらに黄河文明

が乾燥地の文明であるのに対して、楚文明は湿潤・温暖な気候のもとで繁る森林の文明である、と比較されることもあります。黄河文明が甲骨を用いた占いを重んじたのに対して、楚文明では〈巫〉と表記される霊能者の存在が大きかったともいわれます。また、漆器など、その地の豊富な森林資源に支えられた遺物が多いことでも、楚文明は特色づけられています。文学で言えば、黄河文明が『詩経』に集約された〈詩〉を生み出したのに対して、楚文明は『楚辞』を代表とする〈賦〉を生みしました。

ご寄付・ご協力

東京の工野さんから

先ごろ父君が逝去された東京の工野正樹さんより香典の一部140万円をGENに寄付していただきました。お志は黄土高原でおよそ70ha、2万本のマツの造林費用となります。また香典を寄せられた500人の方には、遺族から絵はがき「黄土高原に緑を！」一組と趣旨を書いたお礼状が送られました。故人は生前、中国とも縁があった方だそうです。

香川の立野さんから

今春、香川弁護士会長に就任された立野省一弁護士が「アジアのために活動しているNGOの活動資金に」と、就任お祝い金の一部、10万円を毎日新聞高松支局を通じてGENに寄付してくださいました。

資器材の提供

ありがとうございます

地球環境林センターでの、各種の実験、育苗などのために、さまざまな方面から、器材、資材などを提供していただきました。さっそく現地で大切に使用させていただいています。

環境事業団

地球環境基金助成決まる

1997年度の環境事業団地球環境基金の助成が決まりました。金額は440万円で、大同市南郊区の地球環境林センターの実験棟建設などに使わせていただきます。

使用済みテレカ

1年でマツ苗120万本分に

いつもたくさんの方にご協力をいただいております使用済みテレカ等の換金状況をご報告します。

1996年4月から97年3月の1年間で、テレカ・オレンジカード・ハイウェイカードなど135,70枚を1,797,000円に換金いたしました。マツの苗木にして約120万本分に相当します(円安のためにちょっと率がわるいです)。ありがとうございました。今後ともよろしく願いいたします。

KDDグリーンアース ダイヤル

KDDグリーンアースダイヤルの協力金が、1996年8月から97年1月までの半年間で140,66円になりました。ご利用いただいた方、ありがとうございます

いました。登録・利用回線数は順調に増えています。利用者には負担のかからない緑化協力として、今後とも普及にご協力くださるようお願いいたします。

『地球環境パートナーシップ シンポジウム』で報告

国連持続可能な開発委員会(UNCSD)と地球環境行動会議(GEA/平岩外四会長)の主催による「地球環境パートナーシップ世界会議」の広報プログラム「地球環境パートナーシップシンポジウム」(3月24日・東京)のプレゼンターとして、GENの高見事務局長が黄土高原における緑化協力について報告をしました。外国の参加者にも関心をもたれ、自分たちの国でも協力活動をはじめないか、という誘いもうけました。そのもようは5月9日、NHK教育テレビの「金曜フォーラム」で放映されました。

ホームページのご案内

GENのホームページが引越しました。アドレスは次のとおりですので、一度アクセスしてみてください。

<http://www.mahoroba.or.jp/~tatsumi/gen.html>

ご意見をおまちしています!

アイヌ民族は先住民族

二風谷ダム裁判の判決を聞いて

萱野茂さんと貝澤耕一さんが、二風谷ダム建設用地の強制収容の不当性を訴えていた裁判の判決が、3月27日にありました。以下はGEN 顧問の石原忠一さんと、チコロナイ担当世話人の武田繁典さんが判決公判を傍聴しての感想です。

判決に思う

石原 忠一

昨'96年12月の最終弁論で、原告の萱野茂さんは、「あなた達は、日本という別の国から来た、別の民族なので、アイヌ語を聞いてもわからないのです」と、アイヌ語で主張し、和訳もつけました。これが、歴史上アイヌ語が法廷で使用されたはじめてのことです。

'97年3月27日(木)10時から、札幌地方裁判所でおこなわれた「二風谷ダム訴訟」の判決で、一宮和夫裁判長は、冒頭“原告の請求を棄却します”と主文をよみあげ、緊張が法廷にはりつめました。引きつづいて異例の判決理由要旨が約10分間にわたって述べられました。

“わが国の統治の及ぶ前から北海道に居住し独自の文化を形成……”

“二風谷地域はアイヌ文化にとって聖地。文化がよく保存され、アイヌ文化研究の発祥地であり、アイヌ文化は、自然と共生し、自然の恵を神と崇める中で生まれたものであるから、この地域のこれらアイヌ文化とそれを育む土地を含む自然とは切っても切れない密接な関係にあるのである。”

“国はダム事業にあたり、過去にアイヌ文化を衰退させて来た歴史的経緯への反省を込め、最大限配慮しなければならないが、必要な調査・研究など

の手続きを怠り、重視すべき価値などを不当に軽視・無視した。……ダムの公益性が優先するという判断は、裁量権の逸脱があり違法である。”

胸があつくなるのをおさえることができませんでした。

二風谷の宿を、この朝6時に発ち、原告の貝澤耕一さんの夫人美和子さん、母堂のしづさんらと、武田繁典さんのハンドルで、雪の山野を2時間あまり走り、開廷前の裁判所へかけつけたのでした。しづさんの懐には、故貝澤正さんの遺影がありました。

「たった2人の反乱」と針のむしろのような状態をしのんで来られた原告と、それを支えた、田中宏弁護士団長らの信念が、歴史的全面勝訴をかちとったのです。

興奮つづくなか、ひとり私は、知里幸枝さんのユカラ“銀の滴降る降るまわりに……”とくちずさんでいました。

'97.5.2

歴史的な判決

武田 繁典

3月25日から「緑の地球ネットワーク」顧問の石原忠一さんを二風谷へご案内したあと、27日に札幌で、二風谷ダム裁判の判決公判を傍聴する機会に恵まれた。一晩は貝澤耕一さん宅にお世話になり、二風谷荘にも一泊して現地の空気にじかにふれたあとだけに、



萱野さん(左)、貝澤さん喜びの記者会見

裁判長の読む判決文のひとつひとつに大変感慨深いものがあった。

傍聴のときの印象は石原さんの報告にゆずって、私は私たちのチコロナイの運動との関連で書いてみたい。

判決の全文は35ページ(1ページ35文字)もあり、その中には歴史的背景、二風谷の現状なども詳しく述べられている。私たちが毎年夏のワーキングツアーで参加している「チブサンケ」については、「アイヌ文化の伝承やアイヌの人々と和人ととの交流を図り、アイヌの人々の主宰による地域に密着した祭りとなっている」と述べている。判決文では、アイヌ民族以外の日本人を「和人」と定義して使っている。

また、ダム付近が持っているアイヌ民族にとっての、環境的・民族的・文化的・歴史的・宗教的に重要な諸価値は、「アイヌ民族に属さない国民一般にとっても重要な価値を有するものである。なぜなら、島国である我が国において、多くの民族の文化に接する機会是比较的限られたものにならざるを得ないとみられることから、ともすれば単一的な価値観に陥りがちであるところ、日本国内において先住少数民族の先住地域に密着した文化に接する機会を得るところは、民族の多様性に対する理解や価値観の醸成に大いに貢献すると考えられるからである。」とも

述べている。これは、私たちがチコロナイの運動で、まず現地に行き、直接肌で感じ、ともに汗を流しながら交流し考えようというワーキングツアーの趣旨と同じである。その他の部分でも原告の主張と、証人(次頁につづく)



完成してしまった「違法」二風谷ダム

チコロナイ 第2期計画現状報告

1995年12月10日から、2年計画で始まった第2期計画も、残すところ約半年になりました。しかし、寄付金はまだ目標額700万円の約半分しか集まっています。

第2期計画に入ってから寄付された方は、4月26日までで192人。そのうち、第1期から続いて第2期もという方が79人いました。第1期でチコロナイの輪に加わられた方々で、まだの方は第2期でもご協力をお願いいたします。また、あらたに第2期から参加した人は113人でした。まわりの人に紹介して下さってもっともっと輪が広がることをねがっています。

二風谷ダムの歴史的な判決やアイヌ新法の成立のことが新聞やテレビで大きく報じられ、アイヌ民族をとりまく環境が大きく変化していこうとしている今、私たちチコロナイの運動もますますその真価が問われています。

第2期の募金目標を達成するためにも、チコロナイの輪をますます広めていくためにも、多くの方々の積極的な参加を呼びかけます。

【連絡先】

緑の地球ネットワーク事務所
武田繁典 〒546大阪市東住吉区今川

(前頁からつづく)の証言が多く取り入れられ、しっかり読んで学ぶ価値があるように思える。

公判中やその後の萱野さん、貝澤さんをはじめアイヌ民族の方々の、涙をながして喜び合う様子も印象深かった。「和人は悪いわ!」と言って悔しさのなかで亡くなった貝澤正さんの歴史、その前の、そのまた前の世代の歴史があるからこそ、この喜びの深さもあるのかと思い、改めて、その歴史の重みと、貝澤正さんの遺志をつぐナショナルトラスト「チコロナイ」の重要性をかみしめた。

ともあれ、この判決文をしっかり読むところから再出発をしたいと思います。

大阪でのチコロナイ学習会(第25回、6月28日)ではみんなで読みましょう。

6-2-6 TEL/FAX. 06-704-7720
貝澤耕一 〒055-0北海道沙流郡平取町二風谷31-3 TEL. 01457-2-208 FAX. 01457-2-3991
郵便振替 00900-2-5202チコロナイ

チコロナイアイヌ語講座 ~いやでもわかるアイヌ語~ 第3期開始

- 日時：6月28日(土)14時~16時
- 場所：GEN事務所
- 資料代：第3期(6回分)で2,000円
- 問合せ：平石清隆(TEL. 0745-23-5627)
- ★初めての人も入りやすい工夫をしました。1回だけの参加もOK(400円)。
- ★5月は休みで7月は26日の予定です。

第25回チコロナイ学習会

「二風谷ダム裁判の判決を読む」

アイヌ民族を先住民と認定した歴史的な判決文を読んで、その意味、私たちのやらねばならないことなどをいっしょに考えましょう。

- 日時：6月28日(土)16時~18時
- 場所：GEN事務所
- 参加費：100円+カンパ
- 問合せ：武田繁典
- ★初めての人も大歓迎です。どうぞ。
- ★5月のチコロナイ学習会は17日の有澤さんの講演会です。7月は26日の予定です。

第4回二風谷 ワーキングツアーご案内

- 日時：8月18日15時~23日12時(JR富良野駅集合、二風谷解散)
- 場所：北海道沙流郡平取町二風谷、富良野市
- 募集：15人(ただし、全行程に参加できる人)
- 締切り：7月17日、先着順。早割り航空券を買うため早めに申込みを。
- 費用：集合から解散まで5万円(GEN会報購読料、保険料を含む)
- 内容：東大演習林、チコロナイの森、博物館の見学。山、畑仕事。アイヌの木彫り、刺しゅう体験。チプサンケ参加、交流など。
- 問合せ・申込み：武田繁典まで

ナショナルトラスト

“チコロナイ”に寄付された 皆様へお知らせ

募金活動の案内で、寄付された方に、以降3年間、年2回、経過報告やお知らせをお送りすると書いています。今まで、GEN会報「緑の地球」をお送りしてきました。今回は52号でした。今回この55号がお手元に届くと思います。「緑の地球」の53号、54号の関連記事を別刷りで同封しましたので、そちらもお読み下さい。なお、GENの会員、会報購読者には毎月号が送られています。できましたら、そちらの方へのご協力もお願いします。

また、チコロナイ関係の現地宿泊研修会、学習会、アイヌ語講座、講演会などの行事予定、ミニニュース、「アイヌ語ひとくちメモ」などを載せた「チコロナイ通信」を毎月発行しています。ご希望の方は郵送料ともで1年間分1,200円を80円切手15枚で同封のうえ、武田繁典まで申し込んで下さい。

北海道の自然と アイヌ文化にふれる 二風谷ともキャンプ ご案内

夏の北海道の自然の中で、思いっきり遊び、現地の人びととの交流の中で、アイヌ文化の一端にふれる体験をしてみませんか。現地では、4人のチコロナイのメンバーがお世話をいたします。

- 日時：8月5日午後3時~8日午後1時(現地・二風谷集合、解散。希望者は関西国際空港から帰阪まで引率あり。航空料金など3万5千円は別)
- 場所：北海道沙流郡平取町二風谷
- 費用：集合から解散まで3万円(保険料、GENジュニア会員会費含む)
- 募集：小学5年生~中学1年生10人
- 締切り：7月4日、先着順。早割り航空券を買うため早めに申込みを。
- 問い合わせ：武田繁典まで
- 内容：1泊は民宿、2泊はキャンプ。山歩き、川遊び、農作業体験、自炊、キャンプファイアー、アイヌの木彫り、刺しゅう、民族舞踊体験、博物館見学など。

関東ブランチから 春の黄土高原WT 報告会のご案内

- 日時：5月24日（土）15時～
- 場所：立教大学池袋キャンパス5号館1階第1会議室
- 問い合わせ：上田信（TEL/FAX. 03-3838-1695）まで
- ★この春、黄土高原ワーキングツアー後も大同に残って天鎮県の農家に4泊した上田信さんが、村のようすなどをスライドをまじえて報告します。興味深いお話が聞けると思います。ぜひご参加ください。

地球温暖化問題を学ぶ 市民向け連続講演会 私たちの生活と地球温暖化

京都のNGO「環境市民」が今年12月に開催されるCOP3を前に連続講演会を開催しています。直近のものだけご紹介しますが、詳しくは直接環境市民事務局にお問い合わせください。

『私たちの生きている文明と

地球温暖化—文明の盛衰と気候変動』

- 日時：5月24日（土）13時～16時
- 場所：京都商工会議所（地下鉄烏丸線丸太町駅6番出口）
- 講師：安田喜憲（国際日本文化研究センター教授）

- 主催：環境市民（TEL. 075-211-3521、FAX. 075-211-3531）
- 参加費：当日1回で一般800円、学生500円。別途6回分の回数券あり。

パネル展示のお知らせ

橋本紘二さん撮影の写真パネルを、吹田郵便局で展示していましたが、5月中旬から大阪中央郵便局で展示することになりました。機会がありましたらぜひご覧ください。

編集後記

30年前の計画にしばられた諫早湾干拓。100年前の民法にしばられているNPO法人問題。“臨機応変”も度をこすとよくないけど、状況の変化に応じるって大切ですよ。（東川）